

ぜつめつ き ぐしゆ
絶滅危惧種のカワゴケを増やす

カワゴケとは？

カワゴケは、名前のとおり、川に生えるコケ植物です。コケ植物は小さい種類が多いのですが、カワゴケは長さが30cm以上にもなる大きな種類です。全国各地で減り続けており、近い将来に絶滅するかもしれないことから、絶滅危惧種に指定されています。富山県内では、県西部の平地のわき水や井戸水が流れる川でのみ見つきり、生育地は限られていることがわかっています。

カワゴケを増やす

カワゴケが減り続けている川があります（図2の⑥～⑩川）。2003年は生育区間の合計の長さが約3.45kmでしたが、2008年は約2.15km、2021年には約0.17 kmに減りました。カワゴケとともに、水草のバイカモ（図3）もたくさん生えていましたが、近年、外来種のコカナダモ（図4）が増え、バイカモも減りました。カワゴケとバイカモが多い川に戻したいという思いから、2020年にG川の約100mの間でコカナダモを取りのぞくと、残っていたバイカモが増えました。その場所ではカワゴケは生育しなくなっていたので、2021年に近くの水路からカワゴケを移植すると、根づいて増えました。移植が可能であることが分かった、うれしい結果でした。今年には移植地を増やそうと考えています。

（坂井奈緒子）

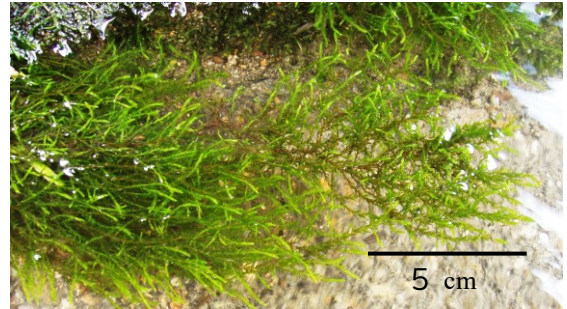


図1 カワゴケ

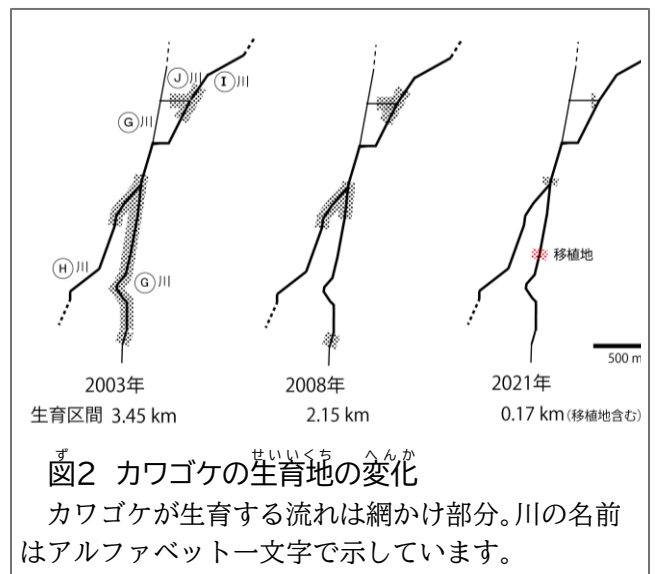


図2 カワゴケの生育地の変化

カワゴケが生育する流れは網かけ部分。川の名前はアルファベット一文字で示しています。



図3 白い花をさかせるバイカモ



図4 北アメリカ原産のコカナダモ

今月のかがくのギモン：カワゴケは、わき水や井戸水の流れでしか見つからないのはどうしてですか？（答えは当館HP www.tsm.toyama.toyama.jp/sqa を見てください）



PDF